

第19回運営委員会の協議状況

日時 平成17年3月28日(月)18:30~21:00
場所 いたみホール 5F会議室
出席者 (委員)松本(誠)、川谷、岡田、長峯、佐々木、中川
伊藤、岡、村岡、酒井、田村
(河川管理者)西川、松本、竹松、前川、西村
(事務局)黒田、前田

内容(協議結果)

次の協議結果を次回流域委員会に報告、提案する。

1 第16回流域委員会の議題調整

(1) 治水計画の詳細検討(流出解析)

流出解析に使用するモデルについて、「流出モデル選定評価一覧」(次回流域委員会に流出解析ワーキングから報告予定)により議論し、決定する。

(主な意見)

- ・次回流域委員会では、まずモデル選定の議論が必要。流出解析に係るモデル選定のための評価一覧を作成し、委員会で議論すべきである。
- ・流域委員会では、ワーキングチームでの議論の内容を十分に説明することが重要
- ・ワーキングチーム内で必ずしも議論(評価)をまとめる必要はない。まとまらなければ併記すればよい。
- ・どの雨を予測に使うかは、流出モデル選定後に議論すればよい。予測のハイドログラフが出た段階で議論すればよい。

(2) ワーキンググループの進め方

進め方等具体的内容は、次回運営委員会(4月11日開催予定)で協議する。
各ワーキンググループは、各テーマに関する総合治水推進(実施)上の課題を、次回運営委員会に報告(提示)する。

(主な意見)

- ・ワーキンググループは、情報収集し、課題整理まではできるが、具体的提案まで行うことは困難ではないか。
- ・各グループから、課題を報告し、流域委員会で議論してもらうのがよいのでは。
- ・各グループから、課題、論点等について、もう少し個々具体的なものを出してもらい、それが総合治水を進める上でどうなるのかを議論すればよい。具体的なことが総合治水では重要である。
- ・ダムが必要か否かは、審議結果の問題であり、ダムの可否を検討するのが委員会の最大のポイントではない。既存の計画をゼロベースから論議し、総合治水の観点から河川整備計画を策定するのが任務である。総合治水でどうしてもない場合には、基本高水を下げるか、ダムをつくるかを検討することになる。これまでも、このような観点をやってきた。
- ・総合治水について、徹底的に検討する必要がある。

- ・各グループから、総合治水の観点からの話題、課題を出してもらえばよい。

2 その他

(1) 意見書の取り扱い

意見書については、これまでは、運営委員会に諮ったうえ、本委員会に提出することとしていたが、運営委員会で確認した議題に即した意見書である場合は、直接本委員会に提出することができることとする。

(主な意見)

- ・日程調整の関係で、流域委員会終了後、同日に運営委員会が開催される場合が多くなってきた。この場合、次の流域委員会までに運営委員会が開催されなければ、その後の意見書のすべてが次回流域委員会に提出がされなくなってしまう。

(2) 中間報告

4月、5月でまとめる。内容は、議論の経過、審議フロー（どのように進め、どこまで進んだか等）、今後の審議の段取り（目標）等とし、昨年の23号台風被害の復旧対策等に関する流域委員会の立場についても、記載する。

(3) 次回の運営委員会の日程

4月11日(月)13:30から、ソリオホール(宝塚市)で開催する。